

令和7年度 学校関係者評価結果報告書

学校名	成田市立久住小学校
-----	-----------

1 学校教育目標

「夢をめざし 心豊かに たくましく生きる 児童の育成」 〇めざす学校像・子どもの夢や希望を育む学校・保護者や地域に信頼され、愛される学校・安全で教育環境が整った学校 〇めざす児童像・くじけず学習する子・ずっと仲良し心やさしい子・みんな元気でたくましい子 〇めざす教師像・教育公務員として高い倫理観を持ち、服務規律を遵守する教師・教職のプロとしての使命感・実践力を持つ教師・児童・保護者・地域から信頼される教師・心身ともに健康で、心豊かな教師・学ぶ意欲のある教師	学校関係者評価委員 海保茂喜 橋本善和 木村岳史 葛生孝浩 伊藤芳之 香取千代美 荒居美沙子 伊藤直子 檜垣憲央 渡邊直胤 岩館史宜 磯部祐子 来島武範
---	---

2 本年度の重点化された具体的な目標

学校教育目標の実現をめざし、知・徳・体のバランスの良い児童の育成を目指し、全職員が協働する。 ①「確かな学力の向上」を図る。授業の始まりと終わりの挨拶「語先後礼」、読み聞かせの充実②「豊かな心」の育成。道徳の時間を要し、教育活動全体を通し、児童の道徳的実践力を育成する。③「健やかな体」の育成。保健学習（性教育・薬物乱用防止教育等）。④「家庭・地域との連携」保護者・地域・関係機関との連携を密にして、信頼される学校づくりに努める。⑤管理・服務規則等を遵守し、不祥事を根絶する。⑥「働き方改革」週の中で、地域巡回日を設け巡回後の退勤を推奨する。	
--	--

3 自己評価結果に対する学校関係者の評価・意見等

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策	学校関係者評価	
					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
教育課程 学習指導	体験的な活動や外部人材の活用、教材の工夫など、分かりやすい授業実践に努めている。	保護者から87%の肯定的評価を得た。	A	学校支援地域本部や保護者ボランティアにより学習支援や読書活動の充実が図られてきた。今後も活動の幅を広げ、さらに充実を図っていく。	A	A
	図書室の整備や読書タイムの実施、読み聞かせボランティアの推進など読書活動の充実に取り組んでいる。	評価は92%であるが、家庭での読書の習慣については48%と低くなっている。	A			
学校関係者 による意見等	学校長主導で、タブレット使用を基本とした授業方式として再構築してほしい。何のために読書の習慣を身につけさせるか考える必要がある。 今後も読書活動の充実に向けた取り組みを継続してほしい。字を書くことにも力を入れてほしい。 わかりやすい授業実践や読書活動の充実が着実に進められていることが保護者評価からわかる。 体験的な活動は地域に任せて良い。 子供だけでなく、大人も情報のアップデートが必要である。					
生徒指導 道徳教育 特別支援教育	思いやりや命の大切さ、きまりを守る等の態度の育成、道徳授業の公開による家庭との連携促進など、心を育ていじめのない集団づくりに取り組んでいる。	評価は81%であるが、他の項目の肯定的評価より、やや低くなっている。	B	道徳授業や命の教育、性教育、生活指導の一層の充実を進める。発達段階に合った支援体制の整備や情報共有、具体的な教育活動の周知を図る。	A	A
	子どもの特性（わかり方・感じ方・表し方等）の理解に努め、保護者との連携を重ねながら特別支援教育の充実に取り組んでいる。	肯定的評価は81%であるが、他の項目の肯定的評価よりやや低くなっている。	B			
学校関係者 による意見等	他社への理解、共感を高めるためには実際に接することが最も効果的であるため、外部から人を呼ぶのがよいのではないかと考える。 「わからない」の回答が多いため、より道徳の授業を学校で知ってもらおうと良い。 子供の多様性が進み中、特性理解や支援には高度な専門性が必要なため、外部専門家との連携や研修会の充実が求められる。 その都度臨機応変に対応してほしい。否定的な意見の保護者の抱える課題や問題点を正確に把握する必要がある。 特別支援教育では子供のやりたいから始め、主体につながっていくことが大切である。					
地域・ 家庭連携	保護者や地域の声に耳を傾け、課題を共有し、子どものより良い教育環境のために連携に取り組んだり支援を行ったりしている。	保護者の肯定的評価は83%となり、他の項目よりやや低くなっている。	B	保護者・地域が学校へ関わる機会を増やし教育効果を高めていく。PTAや学校支援委員会との連携を深め保護者へ周知と情報共有を図る。	A	A
	保護者や地域は学校の教育方針を理解し、教育活動を支援している。	保護者の肯定的評価は83%となり、他の項目よりやや低くなっている。	B			
学校関係者 による意見等	少しずつ保護者によるボランティア参加が浸透してきているように感じるため、引き続き積極的な呼びかけをする。 ボランティアや地域が十分に連携し活動できている。家庭教育学級を活用できると良い。 地域ボランティアの取り組みが十分に保護者に届いていないため、情報を共有し、より支援の輪を広げたい。 より多くの保護者がPTA活動に携われるよう、その必要性を学校から発信していく必要がある。 オープンスクールを実施してほしい。					

4 次期の重点目標と改善のための方策

<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程や学習指導については、学校評価においても高い評価を頂いている。今後も体験学習や外部人材を取り入れた学習の場の工夫や教員の研修を深め児童の学力向上につながる指導を探索していく。 ・読書活動の充実をさらに深めるために、ボランティアや委員会児童による読み聞かせの推進、家庭での読み聞かせの啓発を積極的に行い、連携を強化していく。 ・不登校支援については、家庭や地域・関係機関との連携をさらに図っていく。 ・生徒指導・道徳・特別支援については、授業規律定着の取り組みの重点化や学校と家庭での生活指導の連携強化を進めていく。また、特別支援については、引き続きこの特性に応じた支援を保護者と共通理解を深めながら実施していく。 ・地域・家庭連携については、保護者の理解を深めるために、学校へ来る機会の周知をさらに増やしたり、学校行事の録画鑑賞等を検討したり、「学校の見える化」を図ると同時に学校経営の方向や具体的な手立てを発信し、理解を深めていく。 ・登下校時の見守りや公園の遊び方については、地域や保護者・PTAと協力体制を築きながら、連携を強化していく。そのために学校地域支援本部事業を有効に活用していく。
--